

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2023/3/1 横須賀市教育委員会



3月号

市長・教育長の思い

今回は、市長が抱く「横須賀の目指す教育の姿」への思い、そして、「横須賀市教育振興基本計画」の推進に向けた教育長の思いをお伝えします。昨年3月の創刊から1年間にわたり、計画策定までの道のりを紹介してきましたが、その締めくくりです。



上地 克明
市長

横須賀の何が好きか、理解しなければならない

横須賀の目指す教育の姿が「あなたが好き」「私が好き」「横須賀が好き」とそろい、誰が見ても分かりやすいものになりました。今までは観念的な、こうであるべき、というものでしたが、どうも頭の中でしか理解できないので、このような誰でも分かりやすいものとなり、すごくうれしく思っています。

私はもともと人が好きなタイプで、人が好きではなければ私を好きにならないし、人が好きだからこそ横須賀が好きになる、と思っています。

よく、「私は横須賀が好きです」と言われるのですが、「何が好きなのですか」と具体的にお尋ねすると、お困りになられる方が多くいらっしゃいます。私は特に横須賀の人が好きで、これまでこういう状況の中で、こういう人がいて、こういう信頼する人がいたから、今でも元気で、真面目に生きていられると思っています。

行政もまたしかりなのですが、横須賀の何が好きなのか、突き詰めたことがないように思います。そこはやはり教育の中で、子どもたちが理解しながら、我々も理解していかな

ければいけないところだと思っています。

従いまして、なおさら、「横須賀の目指す教育の姿」が「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり」となったことは、大変うれしく思っています。これは、私が生きていく上での原点であったな、とも思っています。

子どもたちに何ができるか

教育フォーラムでも申し上げましたが、私は、現代社会では「生き抜く力」が必要不可欠だと考えています。このコロナ禍により、孤立感が強くなってしまいうような社会状況の中で、子どもたちがどのように自分でアイデンティティをつくっていくかということが、非常に大変な状態です。

目指す教育の姿には多様性、他者理解、協働性という言葉がありますが、私たちはセーフティネットとして何を子どもたちに提供できるかということについて、教育委員会だけではなく、行政も関わっていかなくてはいけない、福祉も関わらなければいけないと思っています。

横須賀の目指す教育の姿、そして、基本的な方針が出来上がった以上、これは私たち自身の、実践するための使命だと、あらためて感じています。教育委員会と共通の目標を持ち、より連携しながら、教育行政を推進していきたいと考えています。

あらためまして、策定に関わってご尽力いただいた皆さまに感謝申し上げたいと思います。



新倉 聡

教育委員会教育長

教育を取り巻く環境の変化

人口減少、少子高齢化、技術革新の急速な進展、新型コロナウイルス感染症の影響等により、社会は大きく変化しています。

学校教育ではこうした変化の激しい社会において子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力を身に付けるために社会のつながりの中で教育を展開していくことが求められています。

また、社会教育では、人生100年時代をより豊かに生きるため、全ての人が生涯にわたって学び続けられる社会が求められており、その拠点となる社会教育施設には、従来の教育的役割に加え、市民生活のあらゆる場面上における新たな役割が期待されています。

こうした社会環境を踏まえ、今回、新たな「横須賀市教育振興基本計画」を策定しました。

あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

これが、学校関係者、児童生徒、保護者の皆さん、地域の皆さんのご意見を伺いながら策定した、横須賀の目指す教育の姿です。

策定に当たっては、教育フォーラム、教育振興基本計画策定検討委員会などにおいて、世代や立場を超えた多くの方に、横須賀の教育の未来について夢や理想を自由に語り合っていただきました。そして、どのような教育を目指すべきか、繰り返し、議論していただきました。

2030年に向けて、学校、家庭、地域、教育委員会が目指す教育の姿を共有し、その実現に向け、一体となって取り組んでいきたいと思っておりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

横須賀市教育振興基本計画

表紙絵制作者紹介

田村 健（たむら けん）

平成8年（1996年）4月24日生まれ

表紙絵《輝け横須賀Children!》を制作した田村健さんは、現在一般企業に勤務しながら障害者アーティストを支援する団体に所属し、イラストレーターとして活躍されています。

幼少期に発達障害の一種である自閉症スペクトラムの診断を受けた田村さんは、次第に学校へ通うことが難しくなり、横須賀市内の支援教室（相談教室）で多くの時間を過ごすようになりました。その中で、自らの個性である絵を描くことに向き合い、才能を着実に開花させてきました。

馬堀海岸を舞台にしたこの作品には、横須賀になじみの深いスポーツや遊びが取り入れられており、恵まれた自然や環境に守られながらすくすくと育ててほしい、夢や希望、未来が空に向かって高く舞い上がってほしい、というメッセージが込められています。



空に舞い上がる夢と希望を気球で表現し、カラフルな気球の色は、横須賀の子どもたち一人一人の異なった性格や個性が表現されています。また、さまざまなハンディや苦しみを背負った人々が、少しでも生きることによる不安を感じず、自分らしく日々を過ごせる、そんなまちになってほしい、という希望も込められています。

このたび、突然のお願いにもかかわらず表紙絵の制作をご快諾いただき、惜しみない協力を賜りました田村健さんに、心から感謝申し上げます。

